

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 29

事業所番号	2693100030		
法人名	株式会社 キャビック		
事業所名	キャビックケアホームすいーとハンズ物集女 1階		
所在地	京都府向日市物集女町五ノ坪21番地の4		
自己評価作成日	平成29年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成29年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から8年目。よりホームの事を知って頂く為に、掲示板に貼りだす内容や貼り方の工夫・ブログは回数を増やして地域に発信。少しずつですが効果が出てきています。地域の皆様とより密な関係を築く為に、地域の行事・ラジオ体操に参加したり、地域のボランティアさんに来て頂き普段出来ないレクの提供をしている。(フルーツ・京ことば・折り紙・フラダンス・そば打ち・日本舞踊・マジック・歌)。新しい取り組みとして月1回ホーム開放日を設ける事によりホームに親しんで頂けるように努めています。またケアの面では5年前から、始めた「夢を叶える」個別レクは継続して行っている。家族様と過ごす時間を大切に思い、一緒に出掛けられるように家族様にも協力をお願いして家族様と楽しい時間を過ごして頂けるような支援を行っています。ホームに入居された後も、それまで大切にされてきた習慣や家族・友人関係を維持し、安全で楽しい生活をして頂けるように全職員で取り組んでいます。職員の離職率が低いので継続したケアが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

向日市の北部、阪急洛西口駅に近い物集女街道沿いに建つ2階建て、開設7年になる2ユニットのグループホームである。地域との交流、連携に力を注いできて現在大きく花を開いている。利用者が地域に出かけるだけでなく、利用者を楽しませてくれる地域の多彩なボランティアの来訪、毎月の地域開放日に住民が来訪し利用者と交流、市や社協が開催する住民対象の研修に会議室を提供、ホーム内見学や利用者との交流により認知症の啓発、毎週地域で開催するオレンジカフェ等々の地域貢献の活動も多い。経験の浅い若い職員も多いものの利用者への思いが強く、理念の実践に全力を尽くしている。年2回「夢をかええる」取り組みをしており、「寿司を握りたい」「ステンドグラスを作りたい」「お茶を点てたい」「写真立てのフレームを飾りたい」「八つ橋を焼きたい」「友人と一緒に祭りに行きたい」「コンサートに行きたい」等々、夢がかなった利用者は満面笑みである。この活動は利用者や家族の心に深く残ると思われ、圧巻である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念よりすいーとハンズ物集女独自の理念を作成して、玄関・掲示板・リーフレットにのせていつでも職員の目に触れるようにして、共有し日々のケアに繋げている。	法人の理念を踏まえて職員の話合いによりホームの理念を「ご利用者、ご家族、地域の皆さま、職員も、ともに支えあい、優しさ笑顔あふれるすいーとハンズ物集女」と定め、リーフレットに掲示し、玄関前の掲示版に貼っている。毎年度初めに職員と確認し合っている。理念の実践状況は「支えあう」という点で着実に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の包括・居宅に月1回訪問をして交流している。地域ボランティアの来所が増えている事で、施設の事を知って頂くよい機会になっている。地域の行事・ラジオ体操に参加したり、地域の方に研修会等の場所提供をする事で繋がりが広がっている。物集女祭りに地域の方を招いている	利用者は近くを散歩し、地域の人とあいさつしたり、近くの公園で開催されるラジオ体操に参加している。地域の運動会に参加、スプーンレースで賞品を獲得している。近くの回生病院の祭りに行く。住民から七夕の季節にササをたくさんいただき、利用者が短冊を下げて星を見ている。日舞、フラダンス、そば打ち、ウクレレ、マジック、京ことば等多彩なボランティアが来訪、利用者の楽しみとなっている。毎月地域開放日を設け、来訪した地域の人たちとお茶しながら介護の相談にのったり、嚙下体操をしたりしている。地域の人や地区社協等の依頼で研修会にホームの会議室を提供し、その際にホーム内を見学してもらったり、認知症の啓発をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験実習の受け入れや地域の方に認知症の事を少しでも知って頂く為に、月1回ホームを開放して、悩み相談・支援の方法・地域の様子等話している。高齢者カフェも続けており、地域に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの現状(運営・行事・事故・レクの様子・新しい取り組み)等包み隠さず報告し、家族様・参加されている委員の皆様から意見を頂き、職員全員に会議で伝えサービス向上に活かしている。	利用者、家族、地区社会福祉協議会、民生児童委員、更寿老人クラブ、市担当課等が委員となり隔月に開催、議事録は全家族に送付している。職員研修、行事、事故等ありのままに報告し、意見交換している。「事故発生のおと取り組んだ対策の結果を報告してほしい」「誤薬についての対策は適格です」「新入職員を育ててほしい」等の意見をサービスの向上に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で日頃のケアや取り組み・待機者の現状を伝え協力を願っている。また施設として対応が難しかったり、疑問がある時は相談している。協力関係が築けるように心掛けている。	市の担当課とは常に報告を怠らず、連携を保っている。市からの依頼でコミセンや介護事業所、公民館等でオレンジカフェを毎週開催、地域の人が参加している。市が開催する介護相談員養成研修に会議室を提供している。認知症ネットワーク、徘徊模擬訓練に参加している。乙訓グループホーム協議会の研修会に参加し、情報交換や他事業所の見学をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員を設け委員を中心に内部研修を行ったり、本社から講師が来て研修を受けている。職員間で情報の共有をして、拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合はその旨家族様にお伝えして許可を頂いている。	「身体拘束をしないケア」を契約書に明記、毎年職員研修を実施している。職員は拘束11項目ややむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロックについて認識している。1人の利用者の居室にセンサーを使用しており、家族の同意をとっている。玄関ドア、ユニットのドア、エレベーター等日中はすべて施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束委員を設け委員を中心に内部研修を行ったり、本社から講師が来て研修を受けている。虐待が起こる事がないように職員全員で注意し予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方はありませんが、制度がある事や内容を知っておく事は大切なことです。今後内部研修に組み込み、必要な方には支援出来るようにして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の方には、パンフレット・リーフレット・物集などより施設内案内等で口頭で丁寧に対応している。契約に関しては、契約書・重要事項説明書を用いて、一語一句読み合わせを行い説明。質問や不明な点がある場合はその時に対応し理解・納得して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催して家族様の意見や要望が出せるように機会は設けている。出た意見や要望は職員に伝え、ホームの運営に反映させている。	利用者の様子や行事のカラー写真を多数掲載した、担当職員の力作である『もずめだより』と運営推進会議の議事録を隔月に送付、ホームの様子を伝えている。ほとんどの家族は毎月面会に来ており、物集女まつりにも多数参加している。家族会を年2回開催、利用者と一緒にレストランでの食事を楽しんでいる。利用者の「夢をかなえる」取り組みには職員と利用者だけでなくできるだけ家族と一緒にいけるように声をかけ、協力する家族も多い。「職員の名前がわからない」という家族の意見で制服に名前を書いたテープを貼る等改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議を月2回行い、その中で利用者様の事・業務の見直し・意見・提案があれば話し合う機会は設けている。話しやすい雰囲気作りにも配慮している。出来るだけ意見は尊重し反映している。	全体会議を毎月2回実施、運営の話合いと職員が講師となる内部研修をしている。職員は積極的に意見を言っており、「調理に時間をとられるより利用者とかかわりたい」という意見で昼食を調理済みのものにした。夜勤、早出、日勤、遅出等の仕事内容を職員の話合いで決める等意見を生かしている。資格取得や外部研修受講には公休や受講料の援助がある。職員は利用者を担当、「拘束・虐待」「広報」「環境」の委員会活動をしている。法人は新入研修とOJT、年間数回のテーマによる研修を実施しており、外部の講師や職員が講師となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況はタイムカードで把握し、時間外・有給も出来る限り対応している。皆勤手当・経験年数・夜勤手当増えるようになった。今年度より職務の評価をする事になり向上心を持って働ける、働きやすい職場や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはOJT制度を利用している。今年は各ホーム長が研修会の講師となり勉強会を実施。また力量を把握して参加してほしい研修には参加。認知症だけではなく、食事・ユニバーサルドライバー・薬・おむつ等研修の機会は設けている。研修会紹介も会議や掲示板でしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓グループホーム協議会・京都府グループホーム協議会・向日市地域包括ケア会議等に出席している。社協・市役所からの依頼はお断りせずに引き受け、ネットワーク作り・サービスの質を向上出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時に困っておられる事や心配な事を聞いている。入居が決まれば入居前面談でホーム長・ケアマネが本人や家族様より不安な事・困っている事・要望等聞き情報を会議で伝え安心して生活が送って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時から安心して頂けるような対応を心掛けている。入居前の面談・契約時家族様から利用者様の情報・不安な事・困っておられる事・要望等お聞きし寄り添い、プランに取り入れ説明しケアさせて頂く事で信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を崩さない事・ホームに慣れて頂く事・家族様の要望を聞いて、無理のないようにプランに上げて支援している。他のサービスも利用できる事・他施設の申し込みがある場合も対応させて頂く事も伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事・やりたい事・願いや思いを把握しお米の注文・メニュー書き・2階へタ刊運び等職員と一緒にする事で、役割が出来た喜びや感謝の気持ちを伝える事で良い関係が築けている。個別レクでは1対1で過ごしより深い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や郵送物がある時は、日頃の様子を手紙・写真・口頭でお伝えしている。家族様と過ごせる時間を大切に考え家族様と外出、出来るようお願いをして共に支え合っている。個別レクの時も出来る限り、家族様にも参加してもらい絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レク実施時に、利用者様の願や・したい事等くみ取り馴染みの人や場所の関係が途切れないように努めている。1階の方は住み慣れた家に帰る・昔から仲の良かった友達とカフェに行く等関係が途切れないように支援している。	10年のお付き合いのある友人が面会に来てくれて利用者は大喜びである。利用者と友人との手紙のやりとりを支援している。家に帰りたという利用者に家族の協力を得て家に同行している。子どもがなく、仲の好い夫婦の妻が利用者で編み物が得意、夫の誕生日プレゼントに帽子を編みことを支援している。	長い人生を過ごしてきた利用者にとってもう一度会ってみたい人、もう一度行きたい場所等がある。可愛がっていた甥や姪、趣味やサークルで仲良くしていた友人たち、仕事仲間等々、また毎年花見をしていた所、夫と出かけた思い出の地、よく買い物をしていた馴染みの店等々、このように馴染みの人や場所との関係継続を支援することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握した上で、もっとよい関係が保てるように常に職員が間に入り関わる事で、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方については、その後の様子を家族様に連絡したり、施設訪問時に面会に伺っている。契約が終了された方に関しては、時々電話連絡をして家族様の様子を伺っている。関係を断ち切らないようにしたいと心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、家族様の面会時に希望や意向等を尋ね、ケアプランに入れたり個別レクで対応出来るように努めている。	利用開始時には利用者、家族と面談、情報を聴取している。医療や介護サービスの情報も収集している。「足のむくみが心配だけど元気に過ごしたい」「何かすることがあったら教えてください」「若いときは編物をしていました」等利用者の思いを記録している。京都、広島、島根、鹿児島等出身地、夫はJR勤務、ふとん屋、運送業、自身は看護師等仕事、子どもは3人等、生活歴の記録はあるものの情報が少ない。	グループホームでの暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。生まれたところや生家の様子、子ども時代、現役時代の仕事や活動、趣味、結婚生活、子どものこと等、生活歴の情報を収集することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様・病院・在宅のケアマネ・利用されている事業所のケアマネ等から、情報収集し全職員が把握出来るように、フェイスシートに記入。会議や申し送りノートで職員に伝え確認印を押し情報が周知徹底出来ているか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の視診・バイタル測定等で心身状態を把握して体調の悪い方があれば、情報を共有して無理の無い過ごし方をして頂いている。ひとりひとり出来る事をケアプランに入れて、持っておられる力を継続したり、引き出したりして、現状の把握に努める		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は直ぐに介護サマリーで情報を提供し連携を図っている。また面会に行ったり様子を聞いたりし早期退院を目指すと共に医療連携室と連携している。退院後スムーズにホームの生活に戻って頂けるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っていない事を契約時にお伝えしている。特養申請の希望があれば相談に応じている。病状の変化や重度化した際には主治医の指示に従って対応している。	利用者が重度化したり、終末期を迎えた時の対応を「医療連携との連携内容と利用者が重度化した場合の対応指針」という文書にまとめ、契約時に利用者、家族に説明し、同意書をとっている。ホームでは看取りをしない方針である。看取りを希望する家族は多い。職員も馴染みになった利用者を最期まで看たいという希望が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自救急救命の講習を定期的に受講している。急変・事故発生時の対応マニュアルは昼夜別に作成し各階に置いて職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回実施している今年も地域の方にも参加して頂いているがもっと地域の協力体制を広げていく必要がある。夜間は職員が少ない為近隣の職員が応援する体制を築いている。地震・水害の訓練は行っていない。	消防署の協力を得て火事に対する避難訓練を年2回実施している。火災については避難して外に出た利用者を駐車場に置いている大きな車に乗せる予定である。地震の訓練、風水害は2階に上がる等の訓練もしている。備蓄を準備、ハザードマップを掲示している。AEDを備え、職員は救命訓練を受講している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や好み・生活習慣等を尊重し、誇り・プライバシーの保護にも配慮しながら、その方に合った言葉使いや対応をするように心掛けている。	利用者のプライドを損なわないように、利用者ごとにその人にあった言葉遣いに対応に注意している。トイレ誘導や職員同士の申し送りは声の大きさに注意している。職員会議は会議室で実施している。居室においているポータブルトイレには座布団を置き、背もたれに布をかけ、プライバシーに配慮している。暮らしの中で利用者により選択してもらうために、その日に着る服や飲み物は選択肢を用意し、表情やしぐさで判断している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定して頂く事を大切に思い、10時の飲み物はメニュー表から好きな飲み物を選んで頂いている。字の書ける方には、名前と飲み物を書いてもらっている。思いを引き出せるよう時間をかけて関わっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペースが違う為、お一人お一人のペースを大切にしないといけないと思っているが、業務が優先してしまう事もある。起床時間・就寝時間は希望時間を聞き対応している。その日の過ごし方も希望を聞いて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容を実施し髪を整えている。髭そりは毎日行い清潔を保っている。同じ服にならないように、その方の好みを知った上で、職員と共に服を選び身だしなみやおしゃれが出来る支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るように、音楽をかけている。ひとりひとり好みや、嚥下状態が違うのでその方に合った食事形態で提供している一人ひとりの出来る事を活かし、盛り付け・買い物・お盆拭き・テーブル拭き等職員と一緒にに行い準備をしている。	朝食、夕食は担当職員が利用者の声を聞きながら献立を立て、利用者と一緒に買いに行き、一緒に作っている。昼食はカロリー値や栄養バランスを点検した調理済みを購入し、ごはんのみそ汁を作っている。おせち、雛祭り、土用の牛の日のうなぎ等行事食もある。ときには鉄板菜パーティや塩ちゃんこ鍋、おやつの手作り等を楽しんでいる。数人ずつが食卓を囲み職員も一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。認知症による食事摂取に課題のある利用者には職員がさりげなく介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・軟飯・御粥・一口大・刻み・トロミ等利用者様の状態に合わせて提供。食事量・水分量は記録して少ない方については、情報を共有して医療にもつなげて支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。本人が出来る事はして頂くが、確認は職員がしている。利用者様の介護度や口腔内状態に応じて、一部介助・全介助・見守り等で口腔内の清潔を保持している。痛みや義歯が合わない時は歯科に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は出来るだけ減らすようにしている。排泄表で排泄の間隔をつかみ、トイレで排泄してもらうように支援している。間隔が空いた時はお声かけをしてトイレにお誘いしている。	約半数の利用者は尿意があり、トイレの場所がわかっているものの、そうでない利用者も含めてほとんどの利用者はリハパンとパットを使用している。職員が利用者ごとの排泄排パターンを把握し、利用者の表情やしぐさをとらえて声掛け誘導している。夜間も含めておむつの人はいない。入院した利用者も退院後は改善している。水分や食物繊維の提供、運動、腹部マッサージ等で薬に頼らない排便を目指しているものの便秘薬服用の利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪看さんにその都度相談して、ヨーグルト・牛乳・水分を多めにとってもらったり・散歩に出かけたりと工夫はしているが、なかなか出にくい方は医師の処方により頓服の薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望やタイミングをみて入浴が出来るようにしている。週2回の入浴。一人ひとりお湯を張り替える事で清潔な環境で楽しんで入浴して頂いている。清潔の保持に努めている。	浴室は広めで窓があり、明るい。個浴を据えている。スケジュールを決めずに行事や往診がない日は午前1人、午後3人の入浴を支援している。毎週2回を目標としているものの少ない週もある。入りたい時間、湯の温度、入っている時間の長さ等は利用者の希望に添っている。季節にはゆず湯やしょうぶ湯を楽しんでいる。入浴拒否の人には様々に工夫しているものの20日くらい入らない人もいる。	温泉好き、風呂好きでほとんどの日本人はお風呂が好きである。また入浴は食欲増進、安眠の効果があるので、入りたい利用者には毎週3回の入浴を支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間を通していつでも気持ちよく休めるように環境整備・季節にあった寝具を提供している。温度にも気を付けて安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用等年に数回勉強会を行っているが全て把握は出来ていない。服薬の支援は行っているが、飲み方や症状の変化には十分に気を付けている。変化が見られた時は医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の中でされていた事を考慮して、出来る事・したい事を考えて役割や楽しみごとの支援をしている。(メニュー書き・カメラ・掃除・編み物)等。散歩・ドライブ・カラオケ等好きな事を日々の生活に取り入れて気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はよく行っている。本人の希望により、散歩や消耗品の買い物・食材の買い物でスーパーに行ったり・地域のカフェに行ったりしている。個別レクでは家族様・知人・地域の方に協力して頂いて普段には出来ない体験レク等楽しんで頂いている。	車椅子の人も含めて重度の利用者も1週間に1回は外にでて外気に当たり、街の様子を見るように支援している。天気が良く、気候が良ければホームの周りを散歩している。近隣のベーカリーや食材、歯ブラシ等の日用品を買いに数人がが車で出かけることも多い。城陽での花見、嵐山、洛西での紅葉狩り等季節ごとにお弁当をもって遠出のドライブをしている。利用者の「願いをかなえる日」の取り組みは年2回あり、利用者の希望に添って個別の外出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本ホームでお預かりしている。本人が買い物等希望された際は、家族様の承諾を頂き、付添のもと出かけて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、代理で電話をかけたり、途中でかわったりして話をしてもらるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は常に清潔・温度に気を配り、季節の花や壁飾り等工夫して居心地のよい環境を作るようにしている。	こじんまりとした玄関脇に椅子と傘立てを置き、親しみやすい雰囲気である。1階とエレベーターを上った2階がほぼ同じレイアウトで、オープンキッチン付きの居間兼食堂、その奥に居室が並んでいる。2人から数人が囲む食卓がいくつかあり、椅子には様々な柄の座布団を敷き、椅子の背にかけた布きれ等、家庭的である。一輪挿しに花を生けて洗面台の横に置いている。廊下とは木製の格子で視界を遮っている。廊下の壁には名画の大きな額、季節の花の折り紙を貼った利用者力作の色紙等が暖かさを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席におられ事が多いが、フロアの入り口・窓際にソファを置くことで、そこが居場所になっている方もおられ、独りで過ごせる場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居して頂く時に家族様と相談しながら、馴染みのある物を持って来て頂き、環境を替えないような工夫をしている。(家族写真・趣味の物・よく使っていた物)等で居心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室は洋間、手前に洗面台があり、奥は大きなガラス戸から明るい光が入ってくる。好きな人は鉢植やプランターで花を育てることができる。利用者はベッドを置いたり、ふとんを敷いたりし、タンスやチェスト、衣装掛け、テレビ等を持ち込んでいる。部屋にある鉢植の花、日記やノート、家族のアルバム、自作の折り紙を貼った色紙、フレームをデザインした自作の写真立て、衣装掛けにつるした衣類等々、利用者らしさがあふれた部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・出来ない事を把握して見守りを行いながら、安全で自立した生活が送れるようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 29

事業所番号	2693100030		
法人名	株式会社 キャビック		
事業所名	キャビックケアホームすいーとハンズ物集女 2階		
所在地	京都府向日市物集女町五ノ坪21番地の4		
自己評価作成日	平成29年10月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成29年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階と同じく2階もボランティアさんのレクや「夢を叶える」個別レクに力を入れています。ある方はお孫さんの働いている姿を見に行ったり、料理好きな方は娘様と一緒に握り寿司体験をして頂く等家族様との楽しい時間を大切にしています。2階は女性が多いので、家事のお手伝いで食器洗いを職員と一緒にしています。その姿を見ていると、昔こんな風にされていたんだと姿が浮かびます。「外に行きたい」という希望があれば、出来る限り外出支援も行っています。(散歩・ドライブ・喫茶店) 皆さんコーヒーがお好きなので月1回ホームに地域のカフェをされている方に来て頂きカフェを開催。色んな取組をして張りのある生活を送って頂けるように頑張っております。社協・市役所からの要請はお断りせずに対応する事で関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階ユニットに同じ。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念よりすいーとハンズ物集女独自の理念を作成して、玄関・掲示板・リーフレットにのせていつでも職員の目に触れるようにして、共有し日々のケアに繋げている。	以下の項目すべて1階ユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の包括・居宅に月1回訪問をして交流している。地域ボランティアの来所が増えている事で、施設の事を知って頂くよい機会になっている。地域の行事・ラジオ体操に参加したり、地域の方に研修会等の場所提供をする事で繋がりが広がっている。物集女祭りに地域の方を招いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体験実習の受け入れや地域の方に認知症の事を少しでも知って頂く為に、月1回ホームを開放して、悩み相談・支援の方法・地域の様子等話している。高齢者カフェも続けており、地域に貢献している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームの現状(運営・行事・事故・レクの様子・新しい取り組み)等包み隠さず報告し、家族様・参加されている委員の皆様から意見を頂き、職員全員に会議で伝えサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で日頃のケアや取り組み・待機者の現状を伝え協力を願っている。また施設として対応が難しかったり、疑問がある時は相談している。協力関係が築けるように心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員を設け委員を中心に内部研修を行ったり、本社から講師が来て研修を受けている。職員間で情報の共有をして、拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合はその旨家族様にお伝えして許可を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束委員を設け委員を中心に内部研修を行ったり、本社から講師が来て研修を受けている。虐待が起こる事がないように職員全員で注意し予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方はありませんが、制度がある事や内容を知っておく事は大切なことです。今後内部研修に組み込み、必要な方には支援出来るようにして行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の方には、パンフレット・リーフレット・物集女たより・施設内案内等で口頭で丁寧に対応している。契約に関しては、契約書・重要事項説明書を用いて、一語一句読み合わせを行い説明。質問や不明な点がある場合はその時に対応し理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を開催して家族様の意見や要望が出せるように機会は設けている。出た意見や要望は職員に伝え、ホームの運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議を月2回行い、その中で利用者様の事・業務の見直し・意見・提案があれば話し合う機会は設けている。話しやすい雰囲気作りにも配慮している。出来るだけ意見は尊重し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況はタイムカードで把握し、時間外・有給も出来る限り対応している。皆勤手当・経験年数・夜勤手当増えるようになった。今年度より職務の評価をする事になり向上心を持って働ける、働きやすい職場や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはOJT制度を利用している。今年は各ホーム長が研修会の講師となり勉強会を実施。また力量を把握して参加してほしい研修には参加。認知症だけではなく、食事・ユニバーサルドライバー・薬・おむつ等研修の機会は設けている。研修会紹介も会議や掲示板でしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓グループホーム協議会・京都府グループホーム協議会・向日市地域包括ケア会議等に出席している。社協・市役所からの依頼はお断りせずに引き受け、ネットワーク作り・サービスの質を向上出来るように取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来られた時に困っておられる事や心配な事を聞いている。入居が決まれば入居前面談でホーム長・ケアマネが本人や家族様より不安な事・困っている事・要望等聞き情報を会議で伝え安心して生活が送って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時から安心して頂けるような対応を心掛けている。入居前の面談・契約時家族様から利用者様の情報・不安な事・困っておられる事・要望等お聞きし寄り添い、プランに取り入れ説明しケアさせて頂く事で信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活を崩さない事・ホームに慣れて頂く事・家族様の要望を聞いて、無理のないようにプランに上げて支援している。他のサービスも利用できる事・他施設の申し込みがある場合も対応させて頂く事も伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事・やりたい事・願いや思いを把握し見守りの中どんどんして頂いている。メニュー書き・1階へ物品を取に職員と一緒に行く・編み物・裁縫・食器洗い等で、一人ひとりの役割を持って頂きながら出来た喜びや感謝の気持ちを伝える事で良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や郵送物がある時は、日頃の様子を手紙・写真・口頭でお伝えしている。家族様と過ごせる時間を大切に考え家族様と外出、出来るようお願いをして共に支え合っている。個別レクの時も出来る限り、家族様にも参加してもらい絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レク実施時に、利用者様の願や・したい事等くみ取り馴染みの方や場所の関係が途切れないように努めている。また電話連絡をして、知人や家族様の面会も来て頂くようにお声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	2階は自ら発言される方、仲の良い方同士が多いので利用者同士がよい関係を築いている。居室で過ごされている方がおられると心配して声をかけに行かれる事もある。一人ひとりが孤立しないように常に職員が間に入り関わりや支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方については、その後の様子を家族様に連絡したり、施設訪問時に面会に伺っている。契約が終了された方に関しては、時々電話連絡をして家族様の様子を伺っている。関係を断ち切らないようにしたいと心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や、家族様の面会時に希望や意向等を尋ね、ケアプランに入れたり個別レクで対応出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様・病院・在宅のケアマネ・利用されている事業所のケアマネ等から、情報収集し全職員が把握出来るように、フェイスシートに記入。会議や申し送りノートで職員に伝え確認印を押し情報が周知徹底出来ているか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の視診・バイタル測定等で心身状態を把握して体調の悪い方があれば、情報を共有して無理の無い過ごし方をして頂いている。毎日散歩に行きたい利用者様にも時間を見つけて外出の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当が毎月モニタリングを行い3ヶ月毎にホーム長・ケアマネ・担当者で話し合いケアプランの見直しや変更をしている。お声かけをするも家族様の参加は無い。ケアプラン説明時に要望やプランについての意見を頂いて反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに沿った記録は勿論、気が付いた事は送りノートや訪看・受診用ノートに記入し情報の共有をしている。変化があれば、カンファレンスをしてプランの見直し変更を行い会議で報告をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中や家族様の話の中から、希望やニーズを把握し個別の外出や受診の支援を行っている。またひとりひとりに合ったケアを提供する為、利用者の状況に合わせた福祉用具の検討体操等提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協ボランティアの活用。職員の家族・利用者家族の紹介で音楽ボラ・地域のボラ(折り紙・カフェ)等で地域の方の協力を得て豊かな生活を楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約している病院より月2回委託医による往診と週1回の訪問看護により利用者様に適切な医療を提供している。受診後は家族様に報告している。また家族様の希望があれば、入居前からのかかりつけ医に継続して診てもらう事も可能である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、利用者の情報を確実に伝える事が出来るよう全職員が記入出来る専用のファイルで情報を共有。24時間相談できる体制を取っている。看護師から受けた指示は委託医に報告		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は直ぐに介護サマリーで情報を提供し連携を図っている。また面会に行ったり様子を聞いたりし早期退院を目指すと共に医療連携室と連携している。退院後スムーズにホームの生活に戻って頂けるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っていない事を契約時にお伝えしている。特養申請の希望があれば相談に応じている。病状の変化や重度化した際には主治医の指示に従って対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自救急救命の講習を定期的に受講している。急変・事故発生時の対応マニュアルは昼夜別に作成し各階に置いて職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回実施している今年も地域の方にも参加して頂いているがもっと地域の協力体制を広げていく必要がある。夜間は職員が少ない為近隣の職員が応援する体制を築いている。地震・水害の訓練は行っていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や好み・生活習慣等を尊重し、誇り・プライバシーの保護にも配慮しながら、その方に合った言葉使いや対応をするように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定して頂く事を大切に思い、10時の飲み物はメニュー表から好きな飲み物を選んで頂いている。字の書ける方には、名前と飲み物を書いてもらっている。外に行きたいという要望が多い、出来る限り行きたいと言われた時に対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペースが違う為、お一人お一人のペースを大切にしないといけないと思っているが、業務が優先してしまう事もある。起床時間・就寝時間は希望時間を聞き対応している。その日の過ごし方も希望を聞いて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容を実施し、パーマ・髪染め等して髪を整えている。髭そりは毎日行い清潔を保っている。同じ服にならないように、その方の好みを知った上で、職員と共に服を選んでいく。お化粧をされる方については、毎日の声かけと化粧品の確認を行い、いつまでも身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るように、音楽をかけている。ひとりひとり好みや、嚥下状態が違うのでその方に合った食事形態で提供している一人ひとりの出来る事を活かし、盛り付け・買い物・テーブル拭き・食器洗い・ランチョンマット配り等職員と一緒に準備をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食・軟飯・御粥・一口大・刻み等利用者様の状態に合わせて提供。食事量・水分量は記録して少ない方については、情報を共有して医療にもつなげて支援出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。本人が出来る事はして頂くが、確認は職員がしている。利用者様の介護度や口腔内状態に応じて、一部介助・全介助・見守り等で口腔内の清潔を保持している。痛みや義歯が合わない時は歯科に繋げている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は出来るだけ減らすようにしている。排泄表で排泄の間隔をつかみ、トイレで排泄してもらうように支援している。間隔が空いた時はお声かけをしてトイレにお誘いしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪看さんにその都度相談して、ヨーグルト・牛乳・水分を多めにとってもらったり・散歩に出かけたりと工夫はしているが、なかなか出にくい方は医師の処方により頓服の薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望やタイミングをみて入浴が出来るようにしている。週2回の入浴。一人ひとりお湯を張り替える事で清潔な環境で楽しんで入浴して頂いている。清潔の保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間を通していつでも気持ちよく休めるように環境整備・季節にあった寝具を提供している。温度にも気を付けて安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用等年に数回勉強会を行っているが全て把握は出来ていない。服薬の支援は行っているが、飲み方や症状の変化には十分に気を付けている。変化が見られた時は医療に繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の中でされていた事を考慮して、出来る事・したい事をカンファレンスで話し合い、役割や楽しみごとの支援をしている。(メニュー書き・掃除・編み物・食器洗い)等。散歩・ドライブ・カラオケ等好きな事を日々の生活に取り入れて気分転換の支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はよく行っている。本人の希望により、散歩や消耗品の買い物・食材の買い物でスーパーに行ったり・地域のカフェに行ったりしている。個別レクでは家族様・知人・地域の方に協力して頂いて普段には出来ない体験レク等楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本ホームでお預かりしている。本人が買い物等希望された際は、家族様の承諾を頂き、付添のもと出かけて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、代理で電話をかたり、途中でかわったりして話をしてもらえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は常に清潔・温度に気を配り、季節の花や壁飾り等工夫して居心地のよい環境を作るようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席におられ事が多いが、フロアの外(エレベーター前)にソファを置く事で独りになれる時間を確保。よい気分転換になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居して頂く時に家族様と相談しながら、馴染みのある物を持って来て頂き、環境を替えないような工夫をしている。(家族写真・趣味の物・よく使っていた物)等で居心地よく過ごして頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事・出来ない事を把握して見守りを行いながら、ご本人の出来る事はして頂き、安全で自立した生活が送れるようにしている。		